

平成 28 年 1 月 29 日

各位

会社名 株式会社 TOKAI ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 鵜田 勝彦
 (コード番号 3167 東証第 1 部)
 問合せ先 理事 広報・IR 室担当 谷口 芳浩
 (TEL. 054-273-4878)

平成 28 年 3 月期第 3 四半期決算と通期見通しについて

株式会社 TOKAI ホールディングス(本社:静岡県静岡市、代表取締役社長:鵜田勝彦、以下「当社」)は、本日、2016 年 3 月期第 3 四半期(2015 年 4 月~12 月までの 9 か月間)決算を発表しました。

1. 【連結】第 3 四半期決算(P/L)

売上高は、2015 年 3 月よりスタートした光コラボ^{※1}の顧客増加による収入増 37 億円や、アクア(宅配水)の顧客増加に伴う収入増 4 億円があった一方、ガス原料価格値下がりによる価格改訂によりお客様に 82 億円(LP ガス△64 億円、都市ガス△16 億円)を還元したため、減収となりました。

営業利益は、LP ガスの差益が 8 億円増加したほか、アクアの顧客増加に伴う同事業の収支が 2 億円改善しました。このため、今期注力しております光コラボへの先行費用 24 億円があったものの、前年同期比 9 億円(17.7%減)の減益にとどまりました。

(単位:億円)

	実績	前年同期	前年同期比	
売上高	1,301	1,360	△59	△4.3%
営業利益	40	49	△9	△17.7%
経常利益	39	45	△6	△13.2%
四半期純利益	14	18	△4	△23.3%

2. 2016 年 3 月期通期の見通し

上期(2015 年 4 月~9 月)は、営業利益が期初計画の 9 億円から 10 億円上振れして 19 億円となりました。

下期は、第 3 四半期(10 月~12 月)に、既存 ISP 顧客の「転用」に比べて利幅が大きい「新規」光コラボの量販店チャネルにおける獲得ペースが上昇し、期初計画を上回ったことによる先行費用の増加など、期初計画に対する下振れ要素が 4 億円発生しました。残る第 4 四半期にガス事業への気温変動に伴う影響などの不確定要素がありますが、現時点においては通期の業績予想を達成する見込みです。

3. 光コラボの進捗状況

2016 年 3 月期第 3 四半期末の光コラボの顧客件数は 173 千件となりました。売上利益を 10 億円計上した一方で、顧客獲得費用が先行しており、営業損益は△24 億円となりました。

2016 年 3 月期末の顧客件数は 224 千件の見通しです。売上利益は 17 億円を見込み、顧客獲得費用を含めた営業損益は△31 億円となります。これは、ほぼ期初計画通りの損益となります。

また、2017 年 3 月期末には、顧客件数 38 万件を目指しますが、今期の顧客件数増加による売上利益の増加により、光コラボ計画は、当初の目論見どおり収支が均衡まで大幅に改善する見込みです。

4. LP ガス CP 価格の推移

原油価格の値下がりに伴い、LP ガスの原料価格が値下がりしています。

今期の LP ガス平均仕入価格は、前期に比べ 25 千円/トン (34%) 程度安い 47 千円/トンとなる見込みです。

現時点における大手元売り各社の来期予想でも概ね 330\$/トン～390\$/トンと CP 価格が安値水準で推移するものと見ています。当社の期初計画では、来期の CP 価格を 500\$/トンと想定しており、仕入原価の減少が見込まれます。

ガス事業者にとって仕入価格の値下がり、価格競争力強化や収益改善が期待でき、大きなフォローとなります。

5. 2016 年 3 月期の株主還元

今期の配当は、中間配当 6 円および期末配当 6 円の年間 12 円、配当金総額 14 億円を見込んでいます。

これに加えて、発行済株式数の 10% の自己株式を 2015 年 11 月 6 日付で消却しました。

さらに、2015 年 10 月 30 日より自己株式の取得 (上限 18 億円) を実施しており、配当と自己株式取得合計の株主還元率を 100% にする方針です。

2014 年 6 月に公表した 2014 年度から 2016 年度までの中期経営計画 IP16^{※2} の最終年度に向かって業績が順調に進捗していることから、来期についても自己株式取得を前向きに検討しています。

6. 業績への影響

直近の 2016 年 3 月期連結業績予想から修正はありません。

なお、詳細につきましては、「2016 年 3 月期第 3 四半期決算のポイント」をご参照ください。

・平成 28 年 3 月期 第 3 四半期決算短信 (連結) は、以下よりご参照ください。

<http://tokaiholdings.co.jp/ir/library/earnings.html>

※1 光コラボ・・・光コラボレーションの略称。ISP 事業者ほか NTT の光回線の提供を受け、独自ブランドの光回線サービスを提供すること。

※2 IP16・・・当社の中期経営計画「Innovation Plan 2016」の略称

2016年3月期 第3四半期決算のポイント

株式会社TOKAIホールディングス
(証券コード:3167)

2016年1月29日

【連結】第3四半期決算(P/L)

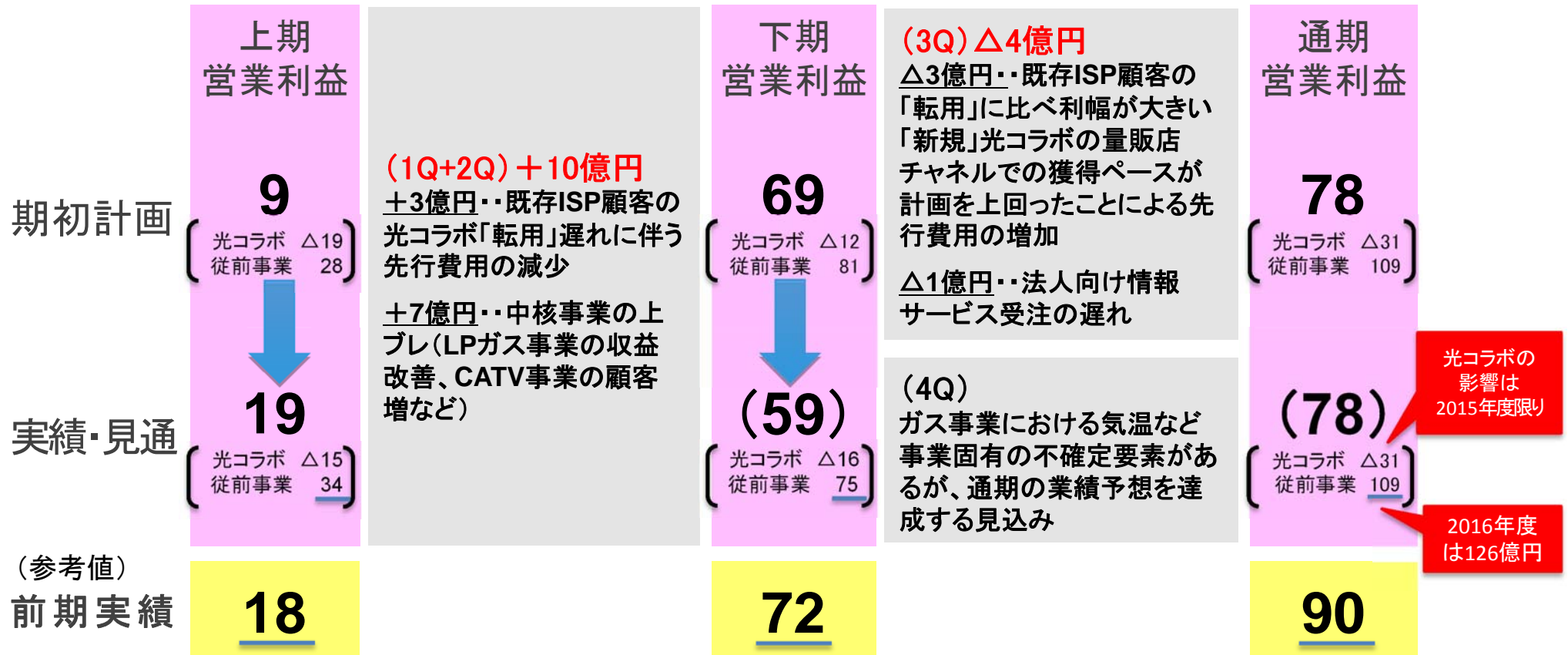
- 売上高は、光コラボの顧客増加による収入増37億円や、アクアの顧客増加に伴う収入増4億円があった一方、ガス原料価格値下がりによる価格改訂によりお客様に82億円(LPガス△64億円、都市ガス△16億円)を還元(4.9%のマイナス影響)した為、減収となった。
- 営業利益は、LPガスの差益が8億円増加したほか、アクア顧客増加に伴う同事業の収支が2億円改善した。このため、今期注力している光コラボの先行費用24億円の負担があるものの、前年同期比9億円(17.7%減)の減益にとどまった。

(単位:億円)	実績		前年同期比	
	(2015年4月1日~12月31日)	(2014年4月1日~12月31日)		
売上高	1,301	1,360	△59	△4.3%
営業利益	40	49	△9	△17.7%
経常利益	39	45	△6	△13.2%
四半期純利益	14	18	△4	△23.3%

2016年3月期通期の見通し

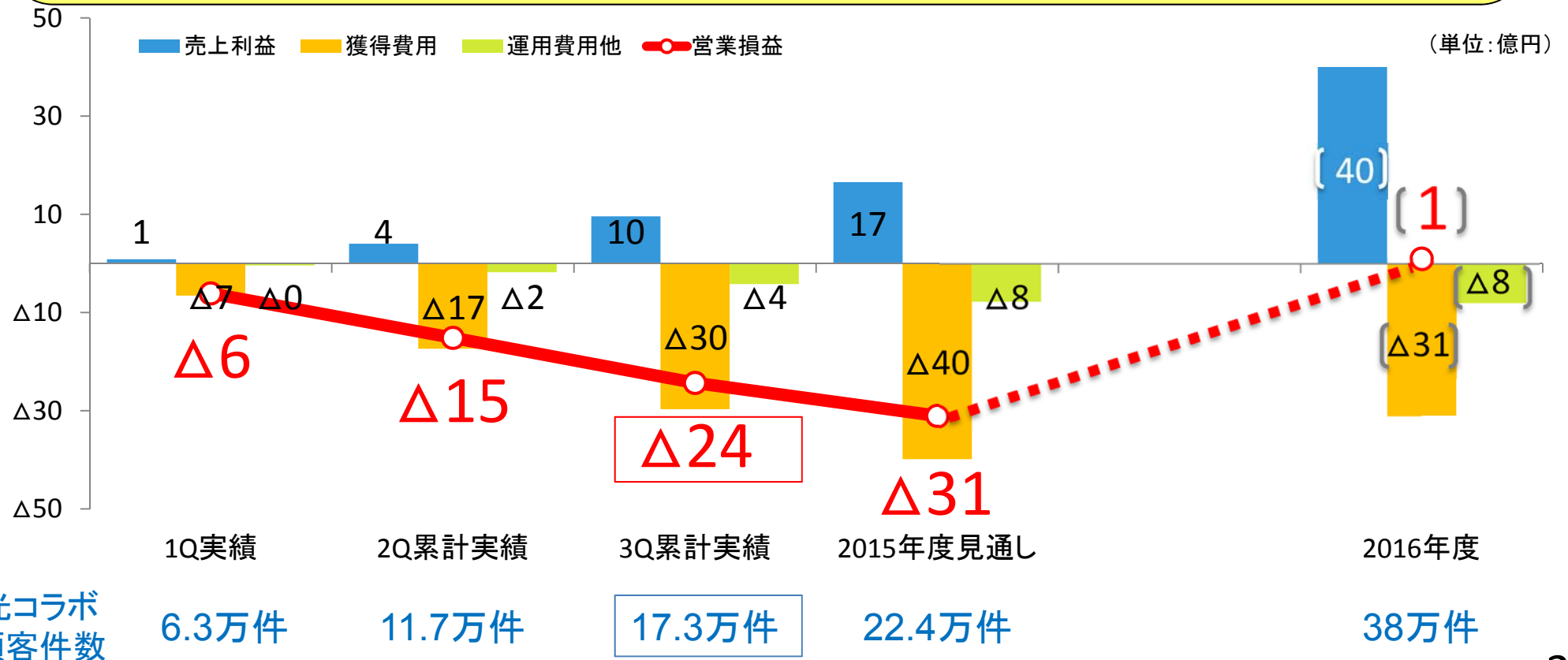
- 上期は、営業利益が期初計画から10億円上ブレした(期初計画9億円→実績19億円)。
- 下期は、3Q終了時点で、期初計画(下期)に対する下ブレ要素が4億円発生した。
- 残る4Qにガス事業への気温変動に伴う影響などの不確定要素があるが、現時点においては通期の業績予想を達成する見込み。

(単位:億円)



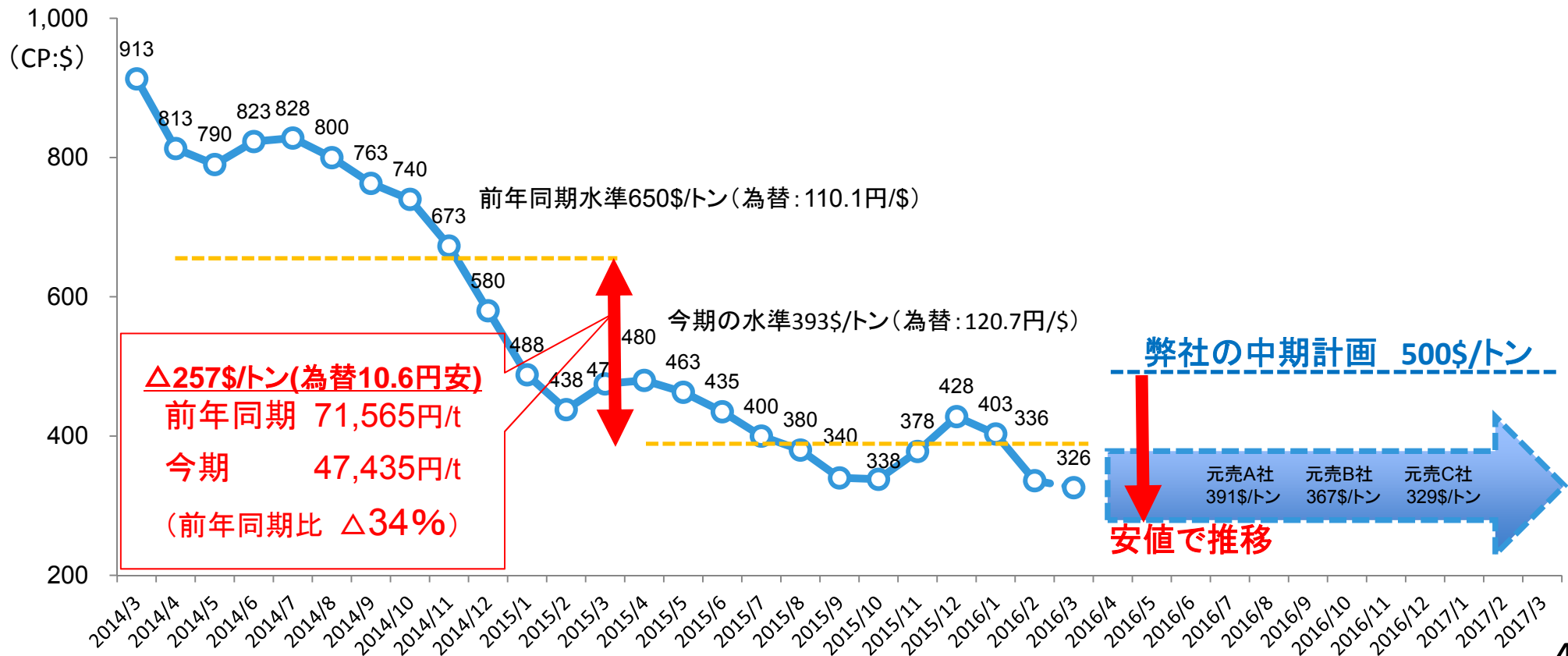
光コラボの進捗状況

- 3Q末の顧客件数は173千件となった(売上利益は10億円、顧客獲得費用が先行し、営業損益は△24億円)。
- 今期末の顧客件数は224千件の見通し(売上利益は17億円、顧客獲得費用を含め、**営業損益は△31億円とほぼ期初の計画通り**)。
- 来期末に顧客件数38万件を目指す、今期の顧客件数増加による売上利益の増加により、当初の目論見どおり**収支は均衡まで大幅に改善する見込み**。



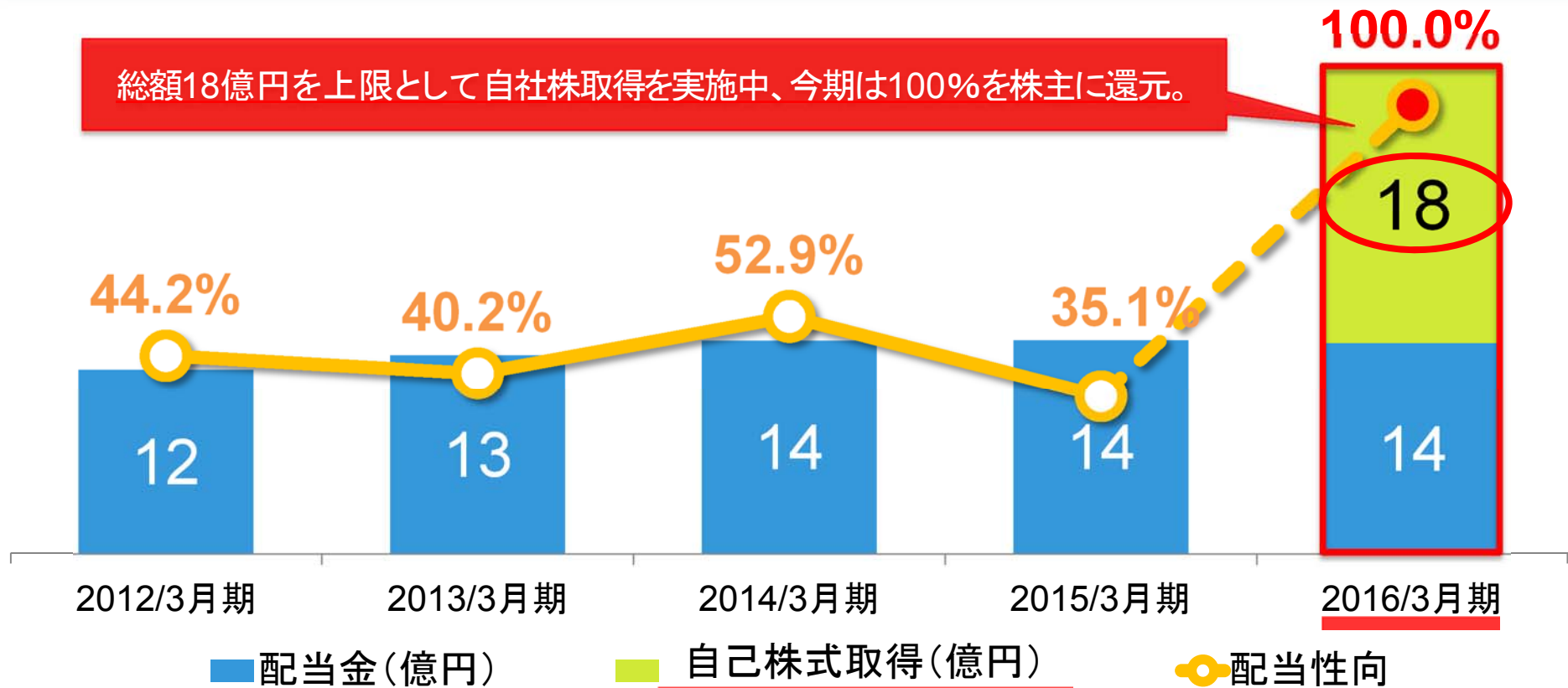
LPガスCP価格の推移

- 原油価格の値下がりに伴い、LPガスの原料価格が値下がりしている。
- 今期のLPガス平均仕入価格は47千円/トンで前期に比べ25千円/トン(34%)程度安い水準となる見込み。
- 現時点における大手元売の来期予想でも概ね330\$/トン~390\$/トンと安値水準で推移するものと見ている。(弊社のH28年度中期計画が500\$/トン)
- ガス事業者にとっては、**価格競争力強化や収益改善が期待でき、大きなフォローとなる。**



2016年3月期の株主還元

- 年間配当金は12円を予定する(第2四半期末6円+期末6円、配当金総額14億円の見込み)。
- 今期は、これに加えて発行済株式数の10%の自己株式の消却、さらに自己株式18億円を取得し、配当と合せて株主に100%還元する方針。
- IP16の最終年度に向かって業績が順調に進捗していることから、来期についても自己株式取得を前向きに検討している。



本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

本資料に関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社TOKAIホールディングス 広報・IR室
〒420-0034 静岡市葵区常磐町2丁目6番地の8
TEL: (054)273-4878
FAX: (054)275-1110
<http://tokaiholdings.co.jp>
e-mail: hd-info@tokaigroup.co.jp

うれしいをつなぐ。ひろげる。

